

眼科臨床エキスパート 所見から考えるぶどう膜炎 第2版

吉村 長久, 後藤 浩, 谷原 秀信 シリーズ編集 園田 康平, 後藤 浩 編

ぶどう膜炎というと45年前の鮮烈な記憶がよみがえる。

医学部を卒業して新入医局員として大学の眼科に入局し、最初に受け持った患者さんがベーチェット病から生じた続発性緑内障の患者さんだった。入院前から治療方針は疼痛除去のための片眼の抜眼と決まっていた。入院時に一生懸命患者さんとお話して、現病歴、家族歴、身体所見、眼所見を取り、カルテを作成した。時間は要したが、患者さんも快く応じてくれた。手術日は入院2日後と決まっていたが、手術前日、すなわち入院翌日に患者さんが行方不明となった。あちこち探しまわったが、見つからない。警察に捜索依頼を出そうかと話し合っているうちに、家人から静岡県で見つかったと連絡があった。後でご本人に聞いてみると、まだ目があるうちに友人と会っておきたいとのことだった。経験の少ない私は、問診をすること、所見を取ることに必死で、眼球摘出を控えた患者さんへの配慮が足りなかったことを思い知らされた。ぶどう膜炎にはこんな苦い経験がある。

私は、卒後45年の長きにわたって眼科臨床に携わってきたが、ぶどう膜炎は専門外である。そんな私がぶどう膜炎の最新のことを学ぼうとすると、ガイドラインだけでも膨大な量を学ばなければならない。日本眼科学会のホームページでぶどう膜炎に関連したガイドラインを調べてみると、2007年から2019年の13年間に5つのガイドラインがある。

- ・サルコイドーシスの診断基準と診断の手引き—2006 (2007/02/10)
- ・Behçet 病 (ベーチェット病) 眼病変診療ガイドライン (2012/04/10)
- ・急性帯状潜在性網膜外層症 (AZOOR) の診断ガイドライン (2019/04/10)

- ・ぶどう膜炎診療ガイドライン (2019/06/10)
- ・非感染性ぶどう膜炎に対する TNF 阻害薬使用指針 および安全対策マニュアル (改訂第2版, 2019 年版) (2019/06/10)

専門外の私が、ぶどう膜炎患者の診療を行う場合、これらのことを全て理解して行うことは至難の業である。

この度、医学書院の眼科臨床エキスパートシリーズ『所見から考えるぶどう膜炎』の第2版が出版された。これは、研修医でも、そして卒後年月を経た私のようなものの再教育にもってこいだ。なぜなら、質の高い写真や図が豊富に掲載されている、とても贅沢な教科書であるからである。そして構成が、第1章「総説」、第2章「総論」、第3章「各論」とスマートな配列になっている。

こうしたシリーズものは1ページ目から通読するのではなく、実際の症例に遭遇した場合、関連した事項をつまみ食いすることが多い。しかし、新しいぶどう膜炎の概念から学びたい方には、第1章の園田康平先生の総説を精読することをお勧めする。余裕のある方は、第2章の後藤浩先生らの総論を通読していただきたい。知っているようで知らないことをここでブラッシュアップしてみるのも一興かと思う。その上で、遭遇した症例について、各論で学ぶことができれば、鬼に金棒である。

ここ10年の免疫学の進歩と生物学的製剤の進歩により、ぶどう膜炎の診断治療の進歩は著しい。この一冊をマスターして臨床に生かしたいと思う。

長岡眼科医院
安藤 伸朗

B5・頁328 2022年07月
定価: 17,600円 (本体16,000円+税10%)
[ISBN978-4-260-04935-1] 医学書院刊